

軍人会館と鈴木大將宅とへ二班別々に行つたのであるが結局合流して軍人会館に赴き、帝國在郷軍人会總務理事赤井少將、理事石坂少將、嘉納大佐の二名に面会。在郷軍人を電車の臨時乗務員にせよと云ふは、無むと陳情した。対し赤井少將より趣旨はよく鈴木大將に傳へるが、吉方として、断じて在郷軍人団服を着するものを市電には乗せぬ方針だ。二日ばかり前下も一人さう言ふものがあつたので、警告中止せしめた。と答へられた。

◆内務省 中川君他八名

丹羽次官に面会、電氣局の非違を説明す

◆同社分局 杉田君他八名

社会局長官に面会、青年団の乗務に及ぶ陳情した。処意はよくわかつた。と

◆東京聯合青年団理事 田澤義輔氏

古川君他十四名、又今旅行中に就き十日頃、一度来てくれと家人より言あり

◆大日本聯合青年団常任理事 福島繁三氏

中野君他十五名、青年団が市電に志願して乗務に乘ると云ふ事は、青年団本来の使命にも背く

のみならず、正當なる従業員の正義の叫びを降みにする行為であるから即時中止させざるを得ない。と申出た。と云ふ福島氏は聯合青年団には東京市各

区青年団に指令する権限がないのは遺憾であるが自分としては青年団員は

争議の時などに出不ぎではないと考へるからその旨意見を發表する事は致

◆市長 五十嵐君他十五名

市長不在澤本助役に面会

市長が東交が何回となく他に財源を求めて従業員に彈圧を加へざるやうせ

よと陳情してゐる上にも閣下が遂に鉄死案を出した理由。詰問

四市理事者は安全なる電車を運轉しろ

一円二十五銭での子弟を通学させることも出来ぬ

一円二角五分の乗車賃は暴案全撤回せぬかぎりストライキを止めないぞ

◆山下局長 戸田君ほか十五名

不在のため、吉田勝務局長を詰問、彼は指先が震へてゐる口もさ

けぬ

以上の如く今回の陳情は団服着用事件に多少の手遣ひがある外参加者が六百七十一名もありたる矣。然も集つた諸君の元氣が素晴らしいかつたこと、更に陸海軍其の他が吾々に極めて有利な事情にあること等を實際的に見ることが出来た。成功であつた。吾々は一糸乱れざる統制団結で飽迄頑張らねばならぬ。情勢は有利だ。最後まで斗へ。

昭和九年 九月八日

東交在郷軍人陳情隊

以上